



手紙のヒミツ!?

佐藤優衣、池田みなみ

背景・目的

便利な世の中になり、コミュニケーションが比較的スムーズになった時代だからこそ手紙に触れる機会が減っているのも事実でしょう。そういった今の時代では、余計手紙の良さも味わい深いものになる。そこで、わたしたちは手紙の良さを再確認してコミュニケーションを深め、それを沢山のひとと共有したいと思った。

すでに分かっていること

株式会社NTTデータ経営研究所による実験で「手書き」と「デジタル文字」を比較すると、手紙は読み手に対して「思いが込められている」というポジティブな印象を与え、またそのためには書き手が時間をかけて文字を書く必要があることも示唆されている。

仮説

- ・手紙を書いて、実際にコミュニケーションを深められるだろう。
- ・相手に手紙を書くことで新たに手紙の良さが分かるだろう。

研究の方法

- ①手紙に関する本やインターネットで手紙の良さを調べる。
- ②他の人にも手紙の良さを実感してもらうため、レターボックスを設置し、時間がある人に以下の手順で協力してもらう。

〈レターボックスについて〉

1. 協力者に箱から手紙を取って読んでもらう。
2. 特に相手を決めずに、手紙を書いてもらう。
※書く内容は自由だが、マイナスなことは書かないように願います。
3. アンケートに回答してもらう。

- ③アンケート内容から分析する。

〈アンケートの質問内容〉

1. どんな気持ちになったか
2. 手紙にはどんな良さがあると思うか
3. 書くときに気がつけたことは何か

結果

①調査した手紙の良さ

- ・自分の伝えたい想いを簡潔に伝えられる
- ・文字に書いた人の個性が現れ、また手紙の内容のあたたかさが加わり、相手に気持ちが伝わる
- ・手元に残るためいつでも見返すことができる
- ・マナーや言葉の使い方を再確認する
- ・手紙をもらうことが非日常的で特別感が生まれる(より心に響く)

②アンケート結果より

1. 誰かと繋がれた気持ちになった、幸せで温かい気持ちになった、昔を思い出した
2. 字のあたたかみ、筆跡から伝わる良さ、素直な気持ちを伝えられる、自然と元気になれる
3. 言葉遣い、字の丁寧さ、読む人が明るくなる内容、素直な気持ち

結論

SNS上では思ったことや感じたことを相手にダイレクトに伝えてしまうが、手紙を書くことで相手のことをじっくり考え、また自分の気持ちとも向き合うことができる。それによって、コミュニケーションがさらに深まる。

考察

メールなど、より効率的な情報の伝達手段がある中で、非効率的だと思われる手紙をもらうと嬉しいという人が多いと調査結果から分かる。また、調べた手紙の良さとは違い、実際に手紙を書くことで他の良さを感じられる。

今後の展望

これらの実験から「文字で内容を伝える」という以外にどのような便箋・ペンを使ったのか、どのような字で書いてるかなどの違いから伝わり方が変わることが期待できる。手紙の文化を継承していくために、手紙の楽しさや手紙を受け取る楽しさを共有できるような研究を行いたい。

参考文献

<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/archives/170704/>(NTT経営研究所による実験)

<https://newhope.hope21.jp/2021/01/22/letter-merit-paperpad/>

<https://suuuh.jp/709>(手紙のメリット)